

増税で助かる命がある

聖望学園高等学校

二年 松 尾 結 子

私たち高校生にとって一番身近に感じる税は、やはり買い物や外食をしたときに支払う消費税だと思います。平成二十六年に消費税が8%に引き上げられ、更に平成三十一年には10%に引き上げられます。そのため、ここ数年「増税」という言葉をテレビなどでよく耳にします。これは私たちにとって重要なことですが、この増税にあまり良いイメージを持たれていないと思います。家族の中でも「また増税かあ…お金がないの…生活が大変になる」ということを耳にします。私も物を買う際に以前よりも多額なお金を払わなければならぬというあたり前のことが嫌だと思っていました。おそらく多くの国民もそのようなことを感じていることでしょう。しかしそれなのに国は増税を止めません。いったいなぜなのかと思います、まず消費税が何に使われているのか具体的に調べてみたところ、一つ目を引くものがありました。

それは税金が難病患者への医療費助成に使われているということです。治療法が確立していないなどの様々な条件を満たし、国で登録された難病と呼ばれる病気の患者の医療費を国が負担するというものです。これは私も聞いたことがあります。

ましたが、この何割かが税金で、しかもとても身近な消費税で賄われていると知り、本当に驚きました。消費税8%への増税による財源で難病医療費助成制度は大きく変わり、対象となる疾患が一気に増えました。増税は、引き上げ前まで難病と認められず、高額な治療費を払ってきた、あるいは払えなかった人々にとっては救われた気持ちだったことだと思います。税金は苦しい人々を助ける働きがあるのだと知りました。

また、私も先天性の病気を持っており、小児慢性特定疾病医療費助成制度の医療費助成をずっと受けてきました。もしこの制度がなかったら私は必要な手術を受けられず、今ここにいなかったかもしれません。今までなんとなく生きてきましたが、これを考えると、税金、税金を払ってくれている人たちに感謝の気持ちが自然と溢れ出てきました。

私は今回、消費税をはじめとする税金について調べ、税金や増税に対する考えが変わりました。税金は私たちが病気を持っている、持っていないに関係なく、誰もが平等に明るく生きるために大きな役割を果たしていることを知りました。何か物を買うときに一緒に払ったお金の積み重ねが人々を助けているということは本当に素晴らしいと思います。消費税引き上げに対しての国民の良くないイメージはまだまだ抜けないでしょう。しかし、増えた分のお金で苦しい生活から解放され、楽になる人々がいる、救えるかもしれない命があることをもつと沢山の人たちに知ってもらいたいです。そして難点はあるかもしれませんが、今なお辛い思いをしている人々が税金の力によって明るく生きられるようになる未来を願っています。

「税」に対する意識

聖望学園高等学校

二年 村 松 る い

私は今まで「税」と聞くと支出ということからマイナスなイメージがあつた。小学生の頃、新聞で「国の借金が百兆円を超え、国民一人当たりの借金が八百万円を超える。」という記事に衝撃を受けたのを覚えている。その当時は、税金についての理解が足りていなかったため不快に思った。「国の借金」は、政府が国民から税金を徴収し社会のために分配するサイクルの中で分配が徴収を上回ったことで生まれた。政府が自ら財を生み出すことはできない。つまり、税を増やし、分配を絞るしか方法はないことに納得がいった。

税金の重要性について理解することができた私は税金と社会福祉のつり合いについて考えた。スウェーデンについて調べたところ、消費税は日本の三倍の二十五パーセントだがそれ以上に、国民が不満をいだくことのないレベルの福祉制度が充実している。例えば、教育費は大学まですべて無料、医療は十八才以下は無料、成人の自己負担が安く抑えられている診察料や薬代などとても体制が整っていることがわかる。このような福祉制度にはしっかりと財源が必要だということ、つまり税金と福祉制度は比例していることに気づかされた。また、スウェーデンの財源の使い方は各自治体で議論し決めるそうだ。この政策はどのサービスが必要でどの税率が

合っていないかと受益者は自分自身であり、その見返りとして負担が生じるということを住民がよく理解し納得できるため合理的で質が高いなと思った。それに対し日本はほとんどの国民がお金がかかるように動いているか不透明だと感じていると思う。これは私達の税金、すなわち政治に対する無関心が起因している問題だと思う。

これからも「国の借金」を減らすことはそう簡単ではないと思う。だが、国民が政治について関心を持ち、税金に対する意識を変えることから始めてみたかどうか。税金は「社会を支える」というプラスの意味が大きくあること。そうすることで日本そして世界の人々が幸せに暮らせる社会になることに繋がっていくと私は思う。



「税と介護の繋がり」

聖望学園高等学校

二年 森下 さくら

私の曾祖父母は栃木で離れて住んでいました。しかし、ある時私のもとへ2人が体調を崩してしまったという連絡が入りました。曾祖母は2人で住んでいたため、まだ体力があった曾祖父が曾祖母の看病をして支えていました。でも、曾祖母は介護なしには生活することが困難になってしまい施設に入ることになりました。曾祖父はその後1人で生活していましたが、いつも2人で仲良く暮らしていたので1人になった寂しさ、そして看病・介護疲れにより先に亡くなってしまいました。大好きだった曾祖父母達がこのような形になってしまい、自分にはもつと何かをしてあげられたのではないかと、とても悔やみました。

この出来事が私の社会保障についての興味を持つきっかけとなりました。そこで、「社会保障と税の一体改革」について目を向けました。「社会保障と税の一体改革」とは、みんなが安心して生活できる社会をつくるための社会保障制度を財政的にも仕組み的にも安定させることで、だれもが安心して利用できるようにするための改革です。そういった改革は私が最も望む「在宅医療」の推進も強化してくれるようです。もし、在宅医療が推進されていれば曾祖父母も、もつと良いサージスを受けられたのだろうと思いました。住みなれた地域で、

安心して暮らし続けることが出来るように、医療・介護・予防・住まい・生活支援を確保したり、認知症施策の医療、介護の連携を推進することも計画に上がっているようです。介護サービスの効率化、重点化を図りつつ必要な介護サービスを確保する措置を平成27年度から実施していることも知りました。

現在世代の支援を強化する施策が1つずつ実現されていると言われていますが、国や地方の財政の大きな部分を占めている社会保障費は、経済の成熟化によってかつてのような高い経済成長率が望めなくなっています。税収は歳出に対して大幅に不足しており、現在では国の歳入の約3分の1を借入金に頼るといふ厳しい状況となっています。しかし、今回の改革により、消費税の使い道として医療介護の充実に1・5兆円弱程度の財源口確保をされるそうです。

今、自分にできることは社会保障の制度や仕組みについて、理解することだと思っています。「私にはまだ関係ないこと」「両親、祖父母も、まだ元気だから大丈夫」なんて思わずに受けることのできるサービス内容、利用するために必要なことについて、1人1人がしつかり学び、理解することが大切だと私は思います。

そして、消費税の使い道を個人が考え、納税をし、より豊かで便利な、人を助けられるような社会を築きたいと思っています。

世界の税金制度について

聖望学園高等学校

二年 安河内 和奏

税金。そのような言葉を聞くと、良いイメージは浮かんできません。おそらく、税について、私が知っている知識は少ないからだと思います。身近な例だと、百円均一のお店で商品を買う時についてくる、あのわずらわしい八円、という印象が強いです。しかし、私は高校生になって、初めて「税金」という存在に関心を抱く機会に出会いました。

それは、留学で約三ヶ月間、ニュージーランドに滞在していた時のことです。一週間や二週間などの短い期間ではなかったのですが、自分が持っているお金で、スーパーマーケットなどで買い物をする時もありました。そこで私が感じた事は、商品がほとんど高値であるという事です。調べてみると、「消費税」が十五%もあることが分かりました。ヨーロッパ諸国は比較的二十%代が多いようでした。このような状況だけでも衝撃的でしたが、それよりも印象に残ったことは、ニュージーランドの社会保障の手厚さでした。例を挙げると、医療費が無料であったり、失業手当も日本よりはるかに充実しています。

これらを踏まえて私が感じた事は、「税金」も使われ方によつては私たち国民の生活を豊かにすることができるし、それと同時に、私たちが日常で目にする、税金の無駄遣いについ

てのニュースが増えると、私たち国民も自分が住む国の財政の不透明さに不安を抱くことも多くなると思います。

なので、税金の引き上げを検討している今、私たち国民が政府に求めることは、税金がどこで、どのように使われているかをもう少しはつきりさせることと、私たち高校生や中学生、小学生が受ける授業に税金の意義をテーマにしたものを含めることです。このような取り組みが広がれば、税金に対して知識が浅いゆえに、ネガティブなイメージを持っている子供が税金の役割を正しく、そして早い段階で理解し、これからの国の財政状況をより良くしていくリーダーが生まれるかもしれないからです。

私も税金の意義や役割についてまだ分からないこともたくさんあるので、これから関心を持ち続け、自分の意見を確立できるようにしたいです。

税金のおかげで

聖望学園高等学校

二年 宮 下 幸 歩

私は生まれつき、「アトピー性皮膚炎」という病気を持っています。その為、定期的に病院に行き薬をもらわなければいけません。最近、久しぶりに病院に行った時に、多額の費用に驚きました。

私の住む市では、「子ども医療費助成制度」といったものがあります。この制度は、市で暮らしている中学三年生までの医療費を市が負担してくれるというものです。その制度のおかげで私は中学三年生までの医療費を市で負担してもらっていました。なので高校生になった今、多額の医療費を見て大変驚き、こんな多額の費用を市で負担してくれたのかと思うと、感謝の気持ちが溢れ出しました。さらに、その制度を高校生になった今知った事に悔しさがありました。中学三年生までの私は、医療費を市が負担してくれているのを知らず医療費は多額のものではないと思っていました。私と同じように、定期的に病院に行かなくてはいけない子供がたくさんいるでしょう。その子供たちに私はこの制度を教えてあげたい。いや、教えるべきだと思います。教える事で、税金の大切さ、これから税金を納める意味を知れるのではないのかなと思います。

もちろん、その市に住む人々の中には、なんで税金なんて

払わなければいけないのだろうと思っている人がいるかもしれません。ですが、その税金のおかげで病気で薬が必要としている子供の医療費を負担していると考えれば、良いことをしているのだと思えるのではないのでしょうか。ただ税金を払うのではなく、その税金でどのような事をしているのか、どういった利益が生まれているのかを納税者に教えるのも良いのかなと思いました。また、納税者自身も税金に助けてもらっているという事を知れる良い機会なのかなと思います。私も幼い頃は、税金なんて払いたくないと思っていました。ですが、税金のおかげで生活ができていっていると说着ても過言ではありません。これから私も恩返しを兼ねて、たくさんの税金を払っていききたいと思います。



税の使われ方について思う

西武学園文理高等学校

一年 山 口 美 有

税金という言葉聞いて一番に思いつくのは消費税、高校生の私にとって唯一、直接関わっている税金だ。消費税については納税しているという感覚があまり無く、買い物をするとは必然的に取られているものという感じだ。なぜ収入の無い私達から税金を取るのだろうかというも思っていた。消費税増税のニュースを目にするたび不満を口にしたりしていた。

税金を取られることばかりいつも気になっていたが、納められた税金がどんな事に使われているのか、身近なところから考えてみた。

私の住む越生町は「教育と子育ての町」を掲げるだけあって私達にとっても優しい町だと思う。医療の面では、十八才まで医療費が全額補助される。受診料がかからないということ、病院などに行きやすくなった人が多くなったという話も聞く。こんなことが、早期に受診し病気の重症化を防いだりすることもあるらしい。インフルエンザのワクチンの助成金については、少しでも多くの子にワクチン接種を受けてもらい、インフルエンザの予防が少しでもできたり、もしかかっってしまったてもインフルエンザ脳症のリスクが下がるということとでワクチン接種の補助もしてもらっている。

教育の面では、越生中学校は全教室にエアコンが完備され

学習しやすい環境が作られている。給食については、全学年が一斉に入り給食を食べることが出来る給食ホールがあったり、環境面でもとても恵まれていたと思う。他にも自転車通学のため生徒全員にヘルメットが無償配付される。このヘルメットについては、自転車による大きな事故が増加しているというので、PTAからの要望後、とても早く実現され生徒の毎日の通学を守ってくれている。とにかく私達の町は子供たちのためにうまくお金が使われているように感じる。

他にも私達のために税金が使われていること。日々のゴミの収集。警察や消防、救急など私たちを守ってくれていること、役所などの公共サービス、図書館、公園、道路の整備。私達の暮らしに無くてはならない多くのサービスがあり、そこにたくさん税金が使われている。

今まで「税金を取られている」という意識が多くあったが、税の恩恵にあずかるばかりでなく、将来社会人になり、納税する立場になったら、納税者として社会を支える一員となれるように、今後の高校生活、気を引き締めて行動していきたいと思う。

助け合いのツール

聖望学園高等学校

二年 九万 田 光

「税金」、あまりいい響きではない。情報番組を見ていると、各政党の税に関する主張は極めて強い。また、政治と金にまつわる問題が多いことから、「税金」が日本の大きく重要な課題であることがよくわかる。

私は、日本国民の課題である「税金」について一度詳しく知りたいと思い、図書館に足を運んだ。また、全く関心のなかった市報にも積極的に目を通すようになった。そこで私がわかったことは、「税金」とは国民の助け合う制度だということだ。今までのイメージは、払わされる、取られるといったマイナスなものがとても強かった。税金が少なければ少ないほど、各家庭の負担が減り景気が改善すると勘違いしていた。しかし、何気なく利用していた図書館、そして、小さい時からお世話になっていて道路、公園、学校、教科書など生活の身近にあるものが税金で賄われていることを知った。当たり前のように感じていたものが全国の納税者によって支えられていることがわかった。

現代では、高齢化により若者の税負担が大きくなっているという。私はその方々の支えを受けてここまで成長することが出来たのだ。だから私は、支えて下さった多くの人に対する心からの感謝の気持ち、そして、私がしてもらったように

将来日本を担う子供たちを支えたいという気持ちで納税をしたい。このように、国民が世代を超えて一丸となり、支え合い、助け合うものが「税金」だと思ったからである。

日本では、今もなお災害で苦しんでいる人が多くいる。恐らくこれからも災害は起こるだろう。そんな時、私は、壊れた家を直すことは出来ない。瓦礫によって塞がれた道路を整備することは出来ない。けがを治すことも出来ない。しかし、納税をすることで支援をすることは出来る。私は、日本の助け合いの精神を大切にしたい。そして、納税することに誇りを持つていきたいと思う。「税金」とは、助け合いのツールだからだ。



税に対する考え方

西武学園文理高等学校

一年 柳 下 俊 樹

私は、この税についての作文を書くにあたり、自分の税に対する知識はとても浅く、税とは何か、まるでわかっていなかったことを、改めて実感しました。そんな私が税という言葉聞いてまず思い浮かべたものは、直接税と間接税でした。この二つならば私が税について考えることができると思い、自分なりに考えてみようと思いました。

現在の日本の国税のうち直接税は全体の約6割を占めます。私はこの割合に疑問を感じました。もし景気が悪くなってしまったとき、直接税の割合が高いと、税収が激減してしまうのではないかと考えたからです。直接税に含まれ、そのほとんどを占める所得税や法人税は景気が悪いとき、国民の所得の減少やデフレーションの影響を受け、減少します。普段から直接税の割合が高いと、不景気になってしまった時、国が十分な政策をとれないのではないかと強い危険感を覚えました。

次に、間接税についてです。間接税のうち消費税は割合も高く、不景気時でも、消費はなくならないことから安定した税収が得られるといった利点も多いが、低所得者ほど負担が重く感じてしまう、逆累進性が問題視されています。しかし、私はこの逆累進性こそが消費税の最も良い点なのではないか

と考えました。その理由は、低所得者は、生活していくために日々節約をし、消費税で苦しい生活をする事になってしまいましたが、高所得者はどうなのでしょう。高所得者は消費税をあまり重く感じないので、消費しやすくなるのではないかと、私はそう考えました。高所得者が高い水準の消費をすることによって、経済が回復し、インフレーションを起こしやすくなる。そうすることによって、低所得者の生活も改善すると思いました。

私はこの作文を書いて、税とは何かを理解するのに、少しだけ前進できたと思います。こんな身近にある税というもの、私が考えていたより、とても難しく、奥深いものでした。私たちはこれからどう税に向き合っていけば良いのかを考える、とても素晴らしいきっかけになったと感じました。

